

25	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102030	応力誘起変態制御によるインバー合金の開発と工業材料への展開	石田 清仁（東北大学・未来科学技術共同研究センター・教授）	A
（意見等） 熱弾性マルテンサイトによる二方向形状記憶効果を使って、低熱膨張を実現するという興味深い成果をあげている。研究はほぼ順調に遂行されていると評価できる。今後もこの合金開発と実用化に向けた努力を進めてほしい。しかし、2,3の点で疑問があることを指摘しておきたい。第一は、本研究成果の多くの部分が掲載されている論文が、本研究課題の開始以前に公表されたものであり、本課題の開始以後の成果が今ひとつという印象を受ける。この点について研究代表者はその疑問に答える義務がある。第二は、実用化に関する疑問である。新しい合金を工業材料として定着させることは、研究者の目標とすべきことであるが、期待感が前面に出すぎると、逆に厳しく見られることを理解しなければならない。例えば、現在開発中の合金の耐熱性改善をどのような方法でやろうとしているのか、報告書からは読み取れないし、実用化の目途が立っているようにも見えない。最近の研究資金獲得競争の悪弊に引きずられないようにしてほしい。				
26	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102031	発光試薬による超高感度核酸解析手法の開発	甲斐 雅亮（長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授）	A
（意見等） 2002-2003年度の研究計画として掲げられた目標は概ね達成されているが、更に高い目標のためより一層の努力が求められている。研究成果の学術的評価、普及性、波及性についてはほぼ満足されるべき結果を得られているが、更に高いレベルの学術的評価を得られるような努力が望まれる。 研究経費の使用状況については概ね適切と思われる。				